

ウチナーグチ

を愛する心

ハイサイ グスーヨー ガ
ンジュー ヤミセーミ (みなさ
ん、お元気ですか)。

うくん、二十代の私を使う方
言はちよつと違う。どうも直訳
っぽいよね。

みなさん『唐獅子の独言』と
いう本をご存じでしょうか。

一部地域のミニコミ紙にも掲
載されていて、知っているとい
う方もいるのでは？

この本は、沖縄方言対訳の詩
集となっていて、著者は下門次
男氏。じつはこの名前、屋号か
ら取ったペンネームで、本名は、
町史の専門委員でもある玉那覇
文彦さんです。

玉那覇さんは、薄れゆくウチ
ナーグチを何とか形に残したい
という願いから、ご自分の故郷・
小那覇部落の方言でこの詩集を
書き上げました。内容は、戦前
編、戦後編、沖縄戦編の三部で
構成されています。

ここで沖縄戦編からひとつ。

泡盛

「泡盛ですか

何もませないで

そのままがいい」

一杯屋のカウンターで

コップ酒を

所望する

泡盛党の面々

トーフにスクガラスで

水いらずで

やっている

今日も

同時刻に

お店の一角で

しょんぼり

呑んでいる

となり村の

ヨシー兄貴

家族全員

八重瀬岳で

うしなつて

一人者になっている

戦争の話は

しないけれど

時々お酒がすぎると

聞こえぬ程の小さな声で

「どうしようも

ない 事なのさ」と

何度も何度も

口ずさんでは

涙ぐんでいる事もある

シマーグワー

「シマーグワーイ

ゲンバクイ

マツタキーヤサ」

イッバイヤーヌ カウンター ウティ

コップザキグワー

イミトール

シマーグワ ジョーグヌ シンカヌチャー

トーフニ カラスグワー メーナチ

カマーン グウトウ

ヌドーシガ

チューン

ユヌジブン (マングラ) ニ

マチャヌ カタキドグワー ウティ

カタンチ

ヌミスセー

トナイ ムラヌ

ヨシー アヒー

ヤーニンス チュイん ヌクサン

エージ ダキ ウティ

サツテ ネーラン

ドーチュイムン ナサツティ

イクサヌハナセー チュクトバン

サンシガ

チツバチツバ サキグワーヌ スギーネー

チカラン アタイヌ グマギーサーニ

「チャーん ナランサ

イシルカカユル」ソーティ

クイゲーシ ゲーシ

アビトーティ

ナダグルグルー セーシーシーシ

玉那覇さんの詩の根底には沖縄戦が存在
しているような気がします。玉那覇さんが
感じているように、沖縄戦は多くの人命を
奪っただけではなく、心豊かな生活やその
中であつたウチナーグチまで奪い去つてし
まったのかもしれない。

戦後生まれでウチナーグチを使えない私
にも、本の中の詩はどれもおもしろく、切
なく、やさしく心に響くのです。



絵は『唐獅子の独言』より転載